

# 山行報告書

京都田辺山友会

報告者 山下隆

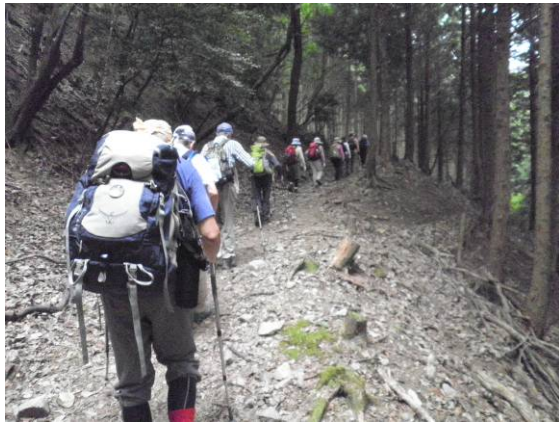
山名	比叡山		山行名	東海自然歩道⑥			
ルート	野村別(大原)―横川―玉体杉―延暦寺―弁天堂―京阪南滋賀駅						
山行日	2013.6.15		天候	曇り・雨・曇り			
参加者	リーダー： 山下                      サブリーダー： 園上 男性(8)： 秋月、竹原、倉光、坪田、中島、西川、 女性(5)： 竹原、樺山、谷川、長野、玉井                      合計：13名						
ルート概略図 野村別れ(大原) <div style="text-align: center;">                     N ↑                 </div>	コースタイム						
	地名		時:分	地名		時:分	
新田辺		発	7:220	着		14:00	
野村別れ(大原登山口)		発	9:00	ケーブル比叡	発	14:13	
仰木峠		発	10.12	ローソン(南滋賀駅手前)	着	17:10	
横川駐車場		着	11:10		発	17:30	
玉体杉(昼食)		発	11:15	新田辺		着	18:50
		着	11:49				
釈迦堂		着	12:15	・歩行距離：18.4km ・歩数：3.7万歩 ・累積標高差：約900m ・所要時間：8時間10分 ・訂正；★☆☆⇒★★☆			
		発	12:55				
		発	13:03				

最近の天気予報は観測網がしっかりしているので、「当たる天気予報」と看板が変わったようだ。空梅雨の中、12時ころからの雨予測だが、尾根歩きになれば傘をさして歩けるコースゆえ、午前中に上まで行けるので決行とした。入会間もない谷川さんと半分は前回は前回も参加された方々で、総勢13人。ワングループでの行動となる。

本来は大原バス停から三千院経由が正式ルートだが、歩く距離もしっかりあるので、手前の野村別れバス停で下車し、40分短縮を選択した。バス停そばのファミリーマートでモロモロお世話になり、かつ登り口を教えていただく。登り始めて振り返ると、トレーニングでお世話になっている金比羅山の岩場が望まれた。仰木峠から横川中堂への道のりは急勾配の下り・上りでバテ気味で駐車場に着く。上り途中で比叡山の境内となり、拝観する方は料金を払うようにとの看板がはやばやと迎えてくれる。駐車場に着くと、早速係員がすり寄ってくる。「13名、東海自然歩道を歩きまーす」で拝観料は不要となる。比叡山の敷地は広く、4-5ヶ所の関所があり、どのオジサマも仕事熱心で、ジローと睨まれた。玉体杉で昼食とする。天気予報通り、霧雨が迎えてくれた。拝観料を払っていない後ろめたさ



もあり、名刹でじっくりすることは無く、ケーブル比叡に着く。雨足も少し強くなったので、比叡駅で全員雨具を付け出発。ケーブル駅で聞いたところ、ゆっくり歩いても1.5hrとの答えだか、標準で2hr強あり、オカシイ？ケーブル比叡駅から琵琶湖に降りる道は沢山あり違う道を教えていただいたようだ。これからは下りだけだと思ったが、そうはいかなかった。結構アップダウンがあり、スベリ安い花崗岩の砂道や真下に下るような長い木道階段は緊張の連続で「超自然歩道」だった。久しぶりの雨で、道々は山ガニと蛙が生き生



きと歩きまわり、ホットする。踏まないように歩くのに気を配る。

最後は又、ファミリーマートでモロモロのお世話になった。この頃には雨も上がり、着替えてさっぱりし、前回同様に活躍していただいたT夫人のおかげで喉もうるおせた。久しぶりの雨具歩行にもかかわらず、厳しい下りを全員元気で無事に降りれて何よりでした。よい夏山トレーニングにもなった。

ヒヤリハット； ありません

## 感想文

### 東海自然歩道 (No. 6)

竹原順治

7時22分新田辺発に乗車。丹波橋で乗り換え出町柳へ。そこから大原行バスで野村別れに9時前に到着。総勢13名。準備体操後、車道から逸れてすぐに大原方面からの東海自然歩道に予定通り9時に入る。

けもの防護柵の扉を抜けて、厚い雲と深い木立で光が通りにくく薄暗い上り坂を一行縦隊で歩を進める。途中の小休止でダニへの対応についての有益な話などを聞かせてもらいながら、杉林であり視界のきかない山道を上っていくと山の稜線に到着。ここが京都・滋賀の府県境、仰木峠(573m)です(10時05分)。

ここから稜線に沿って比叡山への縦走路。段差の大きい丸太階段を苦労しながら上ったり下ったりして進んで行くと、「ここから先、拝観料が必要」という看板に出会う。自然歩道通行者は申告すれば無料なのだが、すでに比叡山延暦寺の領内に入って来ていることを実感する。

奥比叡ドライブウェイに突き当たったところの古びた看板で「夢見が丘～仰木峠略図」を確認し、この歩道が東京の「高尾国定公園」から大阪の「箕面国定公園」を結ぶ約1300kmに及ぶことを知って大変驚きました(えっ、単なる私の知識不足?)。

トンネルでドライブウェイをくぐって少し山道を下ると、横川中堂の広い駐車場。いよいよ延暦寺の境内です。(11時10分)。駐車場奥から再び丸太階段の自然歩道に入り、穏やかなアップダウンの道を進むと、時々展望が開けて山並みが見えるが、勉強不足で山の名はまったくわかりません。時々、木々の間から奥比叡ドライブウェイが垣間見えるので、ドライブウェイに沿って歩いていることがわかります。歩きやすい林間の道を進んで再びトンネルでドライブウェイをくぐってすぐに3体の石仏

を祀った十字路を左にとり、丸太階段を上っていくと大きな杉の木がある展望のきく場所に出ました。玉体杉です。回峰行者がここで御所に向かって天皇の御安泰をお祈りする玉体加持を行うので、この杉の名がついたとのこと。ここで昼食休憩(11時50分)。小雨が降り始めたので、早めに休憩を切り上げ、各人雨対策をして早々に出発(12時15分)。ここは京都市街と琵琶湖が同時に見渡せる絶景ポイントとの事ですが、あわただしさであり記憶にないのが残念です。

ドライブウェイとつかず離れずの回峰行者道を伝えて、3度目のトンネルを抜けると広い道になり、若山牧水の歌碑(比叡山の古りぬる寺の木がくれの庭の筧







を開きつつ眠る)を左に見て進み、通常の服装の人たちと出会うようになってきたなと思っていたら、急に視界が開けて釈迦堂に到着(12時55分)。トイレ休憩の間に釈迦堂を覗くと子供を含む数人の一般人が座禅に取り組んでおられ、凜とした静寂な空気が堂内に漂っていました。

正面の石段を登って、ドライブウェイにかかる陸橋を渡り、所々にある関所で自然歩道の通行者であることを告げながら東塔に向かう。道の左右に浄土院、阿弥陀堂等々、由緒ある寺名の案内標識が目につくが、今日は無料の通行人なので参拝叶わず。雨の中をひたすら前へ前へ。戒壇院からの石段を降り切った所で折

り返してケーブル駅方面に向かうところ、案内標識の位置がまずく、行き過ぎてしまったが、リーダーの素早い機転で数分のロスで正規の道に復帰。無事、ケーブル延暦寺駅到着。(1時45分)。雨がよいよ本降りになってきて、疲労も蓄積。ケーブルでのショートカットに魅力を感じたのは私だけではないと思いますが、乗車賃840円だと知ったこともあり、2時発のケーブルに乗るメンバーはゼロ。全員正規コースを採ることに。この駅の展望台から絶景の琵琶湖が見下ろせるということですが、悪天候でそんな発想も起こらず、待合室のベンチで入念に雨対策を施して出発(2時15分)。駅員さん、売り上げに貢献しなくてごめんなさい。

巨大な杉に沿った白砂の道を下っていく。雨の中だが歩きやすい。階段もどんどん下って行く。吊り下げた金色の灯籠の列に沿って下り、弁財天に黙礼だけして歩を進める。雨はそんなにひどくはないが、止む気配はない。道は普通の山道になるが、多少の昇降はあってもほぼ平坦。歩行に支障はない。桜茶屋跡休憩地到着(3時ごろ)。小広場だが特に見る物もなさそうなので、歩を先に進める。すこし進むと道が階段でほぼ一直線に下っていく。高度差100m以上降下した気がする。下りきると沢に面した平地に出た。わかりにくい道標だが、それにしたがって右折し、沢を渡ると今度は一転してジグザグの登り。予期しない急登に蓄積した疲労が加わり厳しかった(本当に★ひとつ?)。やっと夢見が丘到着。名前からして一昔前は観光スポットだったのであるが、今は見る影もなくさびれている。しばらくは歩きやすい下山道だったが、途中から斜面が急になってきて下りにくくなってきた。いくつかの砂防ダムが現れてくる。そんな沢を黙々と下っていく。沢が合流する近辺が宗福寺跡らしい。道は林道になり歩きやすくなる。金仙滝通過(4時35分)。そこから10分程



下ると滋賀の大仏(高さ3.5mの石像。13世紀作との事)があり、ここが京都北白川へ抜ける旧山中越えの大津側入り口だったとのこと。

道は舗装道路に変わり、滋賀里の集落に入り、湖西道路の下をくぐって京阪石山坂本線に出て、線路伝い南滋賀駅少し手前のコンビニに到着(5時20分)。雨と汗でびしょびしょのシャツを着替えて、飲んだビールのうまかったこと。全員無事、南滋賀駅から山科駅経由京都駅へ帰着して解散。

リーダーの山下さん、道中いろいろとお世話していただいた皆様、本当にありがとうございました。

